

Tips : アクションメニューを利用する

Copyright © EMIT Japan Corporation

概要

WebCT では講義ノートのような講義の内容を「コンテンツモジュール」というツールを用いて作成することができます。そのためコンテンツモジュールは WebCT でコンテンツを作成していく上で一番目にする機会が多い WebCT のツールではないでしょうか。

このコンテンツモジュールですが、図 1 のような画面で見慣れていませんか。このうち矢印がついている部分を「アクションメニュー」と呼び、デザイナーの好みである程度カスタマイズをできることはご存知でしょうか。この Tips ではコンテンツページの補助ツールとして利用できるアクションメニューに関して詳しく見てみたいと思います。





図 1 : 一般的なコンテンツページの画面




この Tips は以下の内容を含んでいます。

- アクションメニューのタイプ
- アクションメニューの追加・編集・削除
- アクションメニューごとの注意事項
- アクションメニューの配置に関する設定

アクションメニューのタイプ

アクションメニューには、画面の移動に関するものとコンテンツページの補助ツールとして利用できるものがあります。画面移動に利用するアクションメニューは次のとおりです。

-  : 目次画面を表示します
-  : 前のページを表示します

-  : 次のページを表示します
-  : 直前に見ていたページを表示します
-  : 画面を更新します

この画面移動に関するアクションメニュー以外に、「WebCT のツールでアクションメニューとして追加できるもの」と、「アクションメニューにのみ追加できるもの」があります。(表 1 参照)

WebCT のツールでアクションメニューとして追加できるものであっても、アクションメニューとして追加することで特別な設定が必要であったり動作が制限されているものがあります。

表 1 : アクションメニューの分類

WebCT のツールでアクションメニューとして追加可能	アクションメニューにのみ追加可能
テスト (*)	ノート
セルフテスト (*)	ブックマーク
チャット	ビデオ
メール	オーディオ
ディスカッション (*)	ゴール
検索	リンク
用語集	リファレンス
インデックス	

(*) はアクションメニューとして追加することで特別な設定が必要なものや動作が制限されているものです。

アクションメニューの追加・編集・削除

アクションメニューの追加には「1 つのコンテンツモジュールに含まれるすべてのコンテンツページに追加する方法」と「コンテンツページごとに追加する方法」があります。すべてのコンテンツページに追加した場合でも、コンテンツページごとに設定を変更することができます。

追加・削除

- すべてのコンテンツページに追加・削除する (対象) ノート、ブックマーク、検索、チャット、ディスカッション、メール、テスト、用語集、インデックス

【手順】

1. コンテンツモジュールの目次画面を編集モードで表示します。
2. 「オプション：コンテンツモジュール」の下でコンテンツモジュールを設定をクリックします。すると、コンテンツモジュールを設定画面が表示されます。(図2参照)
3. 「アクションメニュー」セクションの下で、追加したいアクションメニューにチェックを入れます。また削除したいアクションメニューはチェックをはずします。



図2：コンテンツモジュールを設定画面

- コンテンツページごとに追加・削除する

【手順】

1. アクションメニューを追加・削除したいコンテンツページを編集モードで表示します。コンテンツページを設定画面が表示されます。(図3参照)
2. 「アクションメニュー」セクションの下で、「このコンテンツページに表示したいアクションメニュー項目を選択します」の下で、追加したいアクションメニューにチェックを入れます。また削除したいアクションメニューはチェックをはずします。

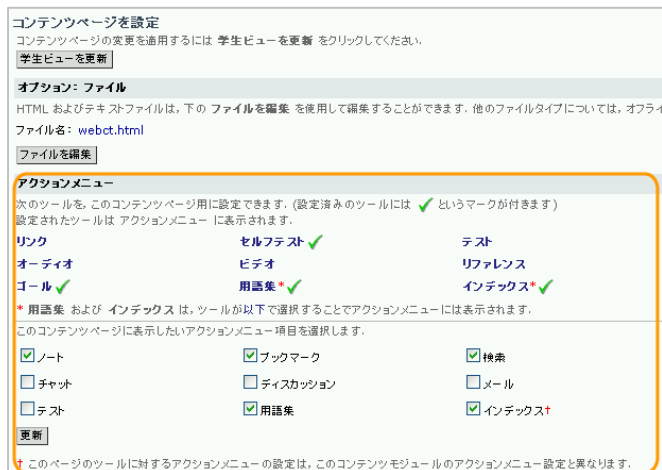


図3：コンテンツページを設定画面

- リンク、セルフテスト、オーディオ、ビデオ、リファレンス、ゴールの追加・削除

これらのアクションメニューは、「コンテンツページごとに追加・削除する」と同じコンテンツページを設定画面で行います。「アクションメニュー」の下で対象のアクションメニューをクリックし、アクションメニューに表示したい内容を作成することによって自動的にアクションメニューとして追加されます。

編集

アクションメニューの内容を編集するには、編集対象のアクションメニューが追加されているコンテンツページを編集モードで表示します(コンテンツページを設定画面)。この画面で、「アクションメニュー」セクションの下で編集を行いたいアクションメニューをクリックします。

学生ビューの更新

コンテンツモジュールを変更を行った時は必ず学生ビューを更新をクリックして、学生からのアクセス画面にも変更を反映してください。学生ビューの更新がある場所は以下のとおりです。どこから操作を行っても動作は同じです。

- コンテンツページの編集画面(コンテンツページを設定画面)
- コンテンツモジュールを設定画面
- コントロールパネルをクリックした画面(基本のコントロールパネル画面または展開されたコントロールパネル画面)
- 編集モード時のコンテンツモジュールの目次画面

アクションメニューごとの注意事項

- テスト
コースに追加しているテストから抜粋して提示することができます。ただし、コンテンツページを設定画面でテストをチェックしている場合は、すべてのテストが表示されてしまいます。
- セルフテスト
ページごとに設定します。そのため、1ページ目と5ページ目にセルフテストを追加しても、同じ内容になることはありません。
- ディスカッション
アクションメニューから投稿すると、「ノート」トピックへの投稿となります。件名には自動的に、コンテンツページ名が入力されていますが変更することは可能です。

➤ 用語集、インデックス

この2つは、内容を作成してもアクションメニューとして明示的に追加しなければ表示されません。明示的な追加の方法は、「アクションメニューの追加・編集・削除」を参照してください。

アクションメニューの配置に関する設定

アクションメニューは、コンテンツページの上部だけでなく、左側に表示したり、非表示にすることができます。必要に応じて変更してください。



図 4 : コンテンツページの左側に表示させた例

手順

1. コンテンツモジュールの目次画面を編集モードで表示します。
2. 「オプション：コンテンツモジュール」の下でコンテンツモジュールを設定をクリックします。すると、コンテンツモジュールを設定画面が表示されます。
3. 「アクションメニュー」セクションの「場所」の下で表示させる場所を選択します。
 - 各ページの上部
 - 各ページの左側 幅 XXX ピクセル
 - 非表示
4. 最後に画面下部の更新をクリックします。

この後、学生ビューの更新は必ず行ってください。

このTips は以下の環境で確認しました。

サーバ : WebCT4.0 日本語版 / RedhatLinux 7.3

クライアントOS : WindowsXP

クライアントブラウザ : IE6.0SP1 / NN7.1

(2004年4月8日 瀧 美渚子作成)